

第12回 地域のたから自慢の逸品

「まぼろしの鉛筆」

仙台市博物館 市史編さん室囑託 倉橋 真紀

一〇月号のこのコーナーで仙台筆をご紹介した折、仙台筆と鉛筆には不思議なつながりがあることをお伝えしていました。今回はその鉛筆についてご紹介します。

近年、日本で初めて鉛筆を製作したのは仙台の人だという説が出ています。現在、ほとんど知られていないこの仙台の鉛筆との出会いは、仙台市博物館へ来た問い合わせの電話を、たまたま私が受けたことがきっかけです。

樋渡源吾を探して

もう一〇年近く前のことです。その電話は、トンボ鉛筆の一〇〇年史を作るために鉛筆の歴史を調べている伊藤貞吉氏からでした。明治一〇年（一八七七）、日本の産業振興のため、国産品展示会である第一回内国勸業博覧会が開催されましたが、それに鉛筆を出品した二人の内の一人、仙台の樋渡源吾という人の資料が何かないか、というのです。

トンボ鉛筆創業者の小川春之助の父作太郎は、明治二四年（一八九二）から仙台の筆屋玉光軒の工場で鉛筆製造に携わっており、もしかして源吾から指導を受けたのではと考えている、ということでした。

玉光軒といえば、慶応二年（一八六六）創業で、昭和初期まで仙台筆などの製造と販売を行っていた大手の間屋です。

しかし、源吾については明治時代に北二番

丁上杉山通に住んでいたことしかわからないということでした。博物館には仙台藩士についての問い合わせがたくさん来ますが、この場合、通常だと調べることはほぼ不可能です。ただ、仙台にはそう多くない「樋渡」という名字に少し心当たりがありました。

実は仙台の樋渡家には、戦国時代に会津の戦国大名蘆名氏に仕え、その後浪人して伊達政宗の時に仙台藩に仕えるようになった家系があります。その分家の一つは、帰農して朴沢村（泉区朴沢）に住みました。代々続く由緒ある家系として村政にも貢献、明治時代にはさらに分家した根白石村（泉区根白石）樋渡家からも村長を輩出しています。

その根白石村樋渡家出身の方が平成に入ってからまとめた、『続根白石樋渡のルーツ』という私家版の本があります。そこには家系図が掲載されており、文政八年（一八二五）生まれの「源吾」という名前が確かにあります。明治一〇年には五二歳のはずです。

仙台の鉛筆製造

第一回内国勸業博覧会の出品記録には、源吾が鉛筆製造を始めたのは安政六年（一八五九）と記録されているようです。これまで日本最初の鉛筆製造は明治七年（一八七四）とされていたので、一五年もさかのぼることになります。源吾の鉛筆出品は明治二三年（一八九〇）の第三回内国勸業博覧会まで続きます。筆と鉛筆の製造に当時技術的な共通点があったか

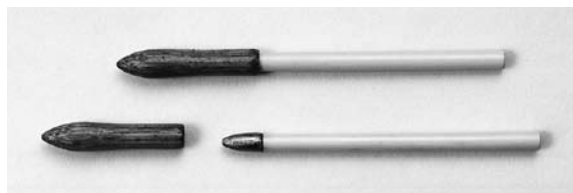
どうかもわかりませんが、玉光軒と源吾の関係も不明でした。しかし、早くから鉛筆製造を行い、博覧会で褒状まで受けた源吾が仙台にいたからこそ、新しいこれからの筆記用具として、高い筆制作の技術を誇った玉光軒で鉛筆製造を始めたとも考えられます。玉光軒は筆の需要の衰退と共に経営が傾き、昭和に入って倒産してしまいます。鉛筆を製造していた記録も残っていないようです。

仙台と鉛筆

問い合わせがあった時から頭の片隅にあったのは、政宗の霊廟瑞鳳殿から出土した鉛筆のことです。この時代の鉛筆は基本的にヨーロッパからの輸入品で、日本最古は徳川家康所用のものですが、形式としては政宗のものの方が古く、製作技法は筆に似ているようです。軸の材質から、ヨーロッパ製をまねて政宗が作らせた可能性も指摘されています。

源吾がなぜ鉛筆製造を志したのかは不明です。政宗が鉛筆を持っていったことを知っていたはずもありません。しかし、仙台と鉛筆の間には不思議な縁を感じます。

歴史にもしもはありませんが、もし、玉光軒の鉛筆製造が軌道に乗っていたら、仙台といえは鉛筆、という日がやって来ていたかもしれませぬ。



復元された伊達政宗の鉛筆。長さ62mm、太さ4.1mmほどのササ製の軸の先端に芯をはめ込み、キャップをかぶせるようになっている。

全32巻にわたる『仙台市史』の最終巻 好評発売中!

仙台市史『年表・索引』

A5判2冊組 年表:138頁/索引:272頁
本体価格 2,000円(税別)

【年表】 通史編全9巻で取り上げた事象を中心に、仙台の歴史を年表化。1冊で原始～政令指定都市となるまでの仙台のあゆみをたどれます。

【索引】 通史編の総索引に加え、特別編「自然」「美術工芸」「市民生活」「民俗」「慶長遣欧使節」の索引を収録。また、全32巻の総目次も掲載。仙台の歴史を学ぶ際の補助として。

発売元：(株)宮城県教科書供給所 (TEL:022-235-7181 FAX:022-225-7183)
お求めは…県内主要書店など 配送希望の場合は電話またはFAXで発売元までお申込みください。

仙台市博物館 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 平成27年3月28日(土)より再開いたします。
http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

国宝・薬師寺の名宝、 仙台限定特別公開

国宝 吉祥天女像(部分) 薬師寺蔵
撮影・飛鳥園

東日本大震災復興祈念特別展
国宝 吉祥天女が舞い降りた!
—奈良薬師寺 未来への祈り—

2015年4/24(金)～6/21(日)
●前売券(一般:1,100円)4/23まで好評発売中